



季節を知ったら
暮らしが楽しくなった

（第六六号）

白露はくろ

九月七日



宇治例祭

地域のお祭といえば、やはり氏神さんのお祭。内宮前の宇治四ヶ町では、毎年八月二十一日が宇治神社の例祭です。

宇治神社はもともとは大字中之切町宇森にあり、饗あえノ山神社とも称しましたが、明治時代になると四ヶ町の神社を次々に合祀し、明治四十三年、現在の今在家町宇丸山に鎮座しました。祭神は大山祇神おほやまひこをはじめ、二十五柱にのぼります。内宮禰宜の荒木田一門の氏神社や、菅原道真もまつられています。マラソン選手の野口みずきさんがお参りしたことで一躍有名になった足神さんの祠もあります。ふだんは静かな境内ですが、この日はお昼前に神事が行われ、夜には提灯や灯笼に火が灯され、大勢の参拝者がひきまきりません。町ごとに子どもたちの絵が展示されているのも、地区の祭りならでは。

神社下の駐車場には屋台が生まれ、盆踊りの輪ができていました。近頃は浴衣姿が多く、浴衣の着付けコーナーも一角に設けられています。子ども達は風船つりなどゲームを楽しみ、大人はおしゃべりに興じている様子。宇治の住民が一堂に会したような賑わいです。またこの例祭は、ほかの地区の盆踊りが終わった八月下旬にあるため、踊り納めようという踊り上手も伊勢中から集まってくるのか。

お祭りの賑わいを離れると、もう木下の闇からは虫の音が響いています。宇治の人々にとって、秋の訪れを感じるお祭の夜なのかもしれません。季節は朝夕の冷えに露がつくという白露。月もさやけく、夜は秋の気配です。

文 千種清美

